

## 事例7 第3学年 内容項目：D 生命の尊さ

- |                     |                       |
|---------------------|-----------------------|
| ・児童に寄り添いながら行う課題提示   | ・紙芝居形式による読み聞かせ        |
| ・効果的な場面絵の活用と切り返しの発問 | ・ねらいとする道徳的価値に気付かせる話合い |
| ・全員に考えをもたせる3人組の意見交換 | ・自己を見つめる書く活動          |
| ・他の教職員による説話         | ・家庭と連携した事後の活動         |

1 主題名 命の大切さを考えよう

2 ねらい 命がなぜ大切なのかを話し合うことを通して、家族に愛され、大切に育まれている命の尊さに気付き、一生懸命生きていこうとする態度を育てる。

教材名 「家族のアルバム」(出典:「彩の国の道徳」(中学年)『みんななかよし』県教委)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第3学年及び第4学年の内容項目「生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。」に関するものである。

いじめや自殺等、命の大切さへの指導が教育において喫緊の課題となっている現在、発達の段階を踏まえ、家庭と連携しながら継続的に命の大切さについて考える時間を設ける必要がある。命はなぜ尊いのかを考えると無数の答えが出てくる。「命は唯一無二のものであるから。」や、「命には終わりがあり、一度しか生きることができないから。」「父母から受け継がれ、自分も次の世代へ受け継ぐべきものだから。」等、様々に考えることができる。本教材では、「家族に愛され大切に育まれてきた命」の尊さを学ぶことをねらいとして授業を組み立て、児童と一緒に命の大切さを考えていく。

自分の命や他人の命を軽視する傾向があったり、命の大切さについて考えることが少なかったりする児童に命の尊さを学ばせるために、本授業では、家族愛(家族に愛されている実感)と関わらせながら授業を展開していく。家族が自分にとって大切な存在であり、自分を支える基盤としてあることは、実感を伴って理解されていることである。家族に深く愛され、大切にされている主人公に気付くことが、自分も同様に家族に愛され、支えられて育まれているという事実気付くことにつながっていく。様々な家庭環境の児童がいる中で、全ての児童が、自分を大切に思ってくれている人がいること、多くの人々の愛情と支えによって自分が生かされていることを実感できるよう、家庭との連携を考えながら学習を進められるようにする。そして、児童一人一人が主体的に考える中で、命が大切な理由についての納得解を得ることで、「家族の愛情を受けて育まれる命」を大切にしながら一生懸命生きていこうとする態度を育てる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

道徳科では、これまでに「目の見えない犬」という教材を用いて、人間や動物に関わらず、命は平等で尊いものであることを知り、大切にしようとする心情を育む指導を行った。また、理科では、「チョウの育ち方」の学習を行う中で、卵という命の小さな粒から美しいチョウへ育っていく過程を間近で観察して感動したり、ハウセンカの栽培で命あるものの世話を責任をもって行ったりすることの大切さを実感してきている。

本学級の児童は、比較的落ち着いた学校生活を送っており、深刻ないじめ問題も今のところ認知されていない。しかし、些細な人間関係のトラブルは日常的に起こっており、その中で「死」という言葉を耳にすることもあった。どの児童も「命は大切」という思いをもっているが、それはなぜなのか、命を大切にすることはどういうことなのかを具体的にイメージしたり、捉えたりす

ることが難しいようである。また、自分を大切にすることは自分の命を大切にすることと同義であるという認識は希薄であると感じる。そこで本授業では、命が大切な理由の中で、一人一人の命が多くの人々の愛情を受けて生まれていることに気付かせ、自他の命を粗末にしたり、軽々しく扱ったりせず大切にし、一生懸命生きていこうとする態度を育てていく。

### (3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、友達とけんかしたことから思わず「死んじゃえ。」という言葉を使ってしまった主人公「たくや」が、そのことを聞いた母から心配されたり、たくやが誕生したときの家族の喜びを父から聞いたりしたことで、命の大切さに気付いていく話である。アンケート調査によると、全ての児童が命は大切であると感じると答えていた。しかし、「死」という言葉をテレビやインターネットをはじめ、日常生活の様々な場面で耳にしたり、時には真似て言ってみたりすることがあることもアンケート結果から見取れた。

本教材は、母の涙や家族のアルバムを見ながら父が話す場面に、主人公を大切に思う家族の思いが溢れており、家族に大切にされている命の重みが実感を持って理解できる教材であると考えられる。本教材の活用にあたっては、主人公への自我関与を中心に授業を展開しながらも、父の視点に立って考えることを通して、命の重みをより実感させながら本時のねらいに迫っていく。このような教材の特質と本学級の児童の実態を受け、主に次のことを話し合うことにする。

#### ①「お前こそ死んじゃえ」と言った主人公の気持ち。

使ってはいけない言葉と分かってはいるが、相手から先に言われたからつい言い返してしまうたくやの気持ちを捉えさせる。命の大切さを知りつつも、大切にできないたくやに共感できるようにする。

#### ②お腹の中でたくやの命が危なくなった時のお父さんの思い。

お父さんの視点に立って考えることで、たくやのことを心から大切に思う気持ちに気付かせる。家族みんながたくやの誕生を心待ちにし、大切に育ててきたこと、命にたくさんの人の思いがたまっていることに気付けるよう、場面絵に吹き出しを付けた板書を示す。

#### ③お父さんの言葉を聞いたたくやの思い。

自分が大切に育てられてきたことや、自分がいること(生きていること)が家族の喜びにつながっていることに気付かせる。自分の命に込められていた家族の思いを捉えさせ、「家族に愛され、大切に生まれている命だから尊い」というねらいについての考えを深めさせる。

#### ④なぜ命は大切なのか。

3人組で意見交換をすることを通して多様な意見に触れたり、一人一人が自分の言葉で命の大切さを語る場面を設けたりすることで、価値についての主体的な自覚を促す。導入に触れ、命が大切な理由が新たな学びとして一つ増えたことを実感させる。

以上の理由から、本主題を設定した。

## 4 学習指導課程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
導入	1 命が大切だと思う理由を発表する。 ・命について考えたことがありますか。 ・命は大切ですか。	・あまりないです。 ・普段考えていない。 ・もちろん大切です。 ・命がないと生きていられないから。	・事前アンケートで実態をつかんでおく。命が大切だと思わないと答えた児童がいる場合は、友達の意見を聞き、命が大切な理由は多様であることや人によって感じ方が違うこ

・命はなぜ大切だと思いますか。

- ・一つしかないから。
- ・親から受け継いだ命だから。
- ・他の生き物の命をもらって生きているから。

- ・とに気付けるようにする。
- ・自分の考えを自由に発表できる雰囲気を作る。

### 児童に寄り添いながら行う課題提示

T：これまで、命について考えたことはありますか。

C：ほとんどない。

T：先生も深く考えたことはないなあ。

C：先生もないんだ。

T：命って大切？

C：うん、大切。

T：どうして命は大切なの？

C：たった一つのものだから。

C：命がないと友達や家族が悲しむから。

T：なるほどね。今日はみんなで命はどうして大切なのか、一緒に考えていこうね。

命について深く考えたことがない児童の実態を踏まえ、教師が寄り添う言葉がけをしながら、本時の学習課題へとつなげていった。

命はなぜ、大切なのか考えよう。

目で追わせてしっかりと捉えさせるため、課題は手書きした。

展開

2 教材「家族のアルバム」を聞き、話し合う。

- ・児童が自我関与しやすいように、教室中央に集めて読み聞かせをする。

### 紙芝居形式による読み聞かせ



本時では、紙芝居を用いて読み聞かせを行った。紙芝居のよさは、児童が想像力を働かせて聞くことができることにある。自我関与が促され、第一発問における話合いにスムーズに入るできるようになった。

(1)「お前こそ死んじゃえ」と言ったたくやはどんな気持ちですか。

- ・なおきとけんかをしていらいらしていた気持ち。
- ・なおきが先に言ったから自分も言っただけと思っただけ。
- ・本当はそう思っていないけれどつい言ってしまった。
- ・言ったあと、少しよくなかったなという気持ちになっている。

- ・「死んじゃえ」という言葉はよくないけれど、つい言ってしまったたくやに共感させる。
- ・「死んじゃえ」という言葉が命を大切にしていない言葉であることを押さえる。
- ・家に帰ってから母にしつこく話を聞かれたたくやの気持ちを考えさせながら、第2発問へ円滑につなげるようにする。
- ・発問が4つあるため、それぞれで話し合う時間に軽重を付け、ここは短時間で行う。

(2)おなかの中でたくやの命が危なくなってきた時、お父さんはどんな思いだったでしょう。

- ・無事に生まれてきてほしい。
- ・何とか助かってほしい。
- ・心配でたまらない。
- ・大切な命がなくなるなんて嫌だ。
- ・生きていてほしい。

- ・たくやのことを心から大切に思う父の思いに気付かせる。
- ・黒板に場面絵を貼り、吹き出しをつけることで、父の気持ちになって考えられるようにする。
- ・家族みんなも同様の気持ちであったことを押さえる。

### 効果的な場面絵の活用と問い返し

T：お父さんはたくやの命が危なくなったとき、どんな思いだったでしょう。

C：無事に産まれてきてほしい。

C：せっかくお母さんのお腹の中にいるのに死んじやったら嫌だ。

C：子供が生まれそうなのに、死んでしまったら悲しい。

児童の思考を深めるために問い返した。

T：どのくらい悲しいかな。

C：ただの悲しみではない。色々な悲しいがつまっている。

C：立ち直れないくらい悲しい。

T：お母さんやおじいちゃんおばあちゃんはどういう気持ちかな。

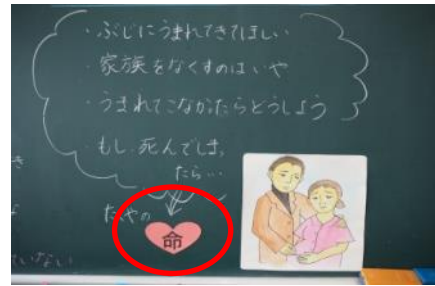
多面的・多角的に考える視点を与えた。



「たくや」から「お父さん」へ考える視点が変わる場面なので、視覚的効果を踏まえて場面絵を指し示したり、吹き出しを付けたりした。

C : お父さんと同じ気持ち。

T : たくやの命の中には、家族みんなの無事に産まれてきてほしい、生きていてほしいという思いが入っているんだね。



(3) 「一番嬉しいのは、今、たくやがここにいてくれることなんだよ。」というお父さんの言葉を聞いて、たくやはどのような気持ちになったでしょう。また、なぜそのような気持ちになったのでしょうか。

どのような気持ちか

- こんな風に言ってもらえて嬉しいな。
  - 心がぼかぼかしてきたな。
- なぜそのような気持ちになったのか
- 自分のことをこんなにも大切に思ってくれる家族がいるから。
  - 自分が生きているだけで、家族の幸せにつながっているから。
  - お母さんが頑張って産んでくれたり、家族が大事に育ててくれたりしたことが分かったから。
  - 家族や周りの人に支えられていると感じたから。

- たくやが嬉しい気持ちになったことを捉えさせ、その理由を話し合うことでねらいに迫る。
- 家族の支えによって自分の命があることや自分が生きていることが家族の喜びにつながることに気付かせる。

### ねらいとする道徳的価値に気付かせる話合い

T : 「一番嬉しいのは、今たくやがここにいてくれることなんだよ。」とお父さんに言われて、たくやはどんな気持ちになったでしょう。

C : たった一つの命がなくなるだけで、家族はこんなにも悲しくなるんだなと思った。

C : ぼくの命をそれだけ守ってくれていたんだ。

C : お父さんの言葉を聞いて嬉しいなって思った。

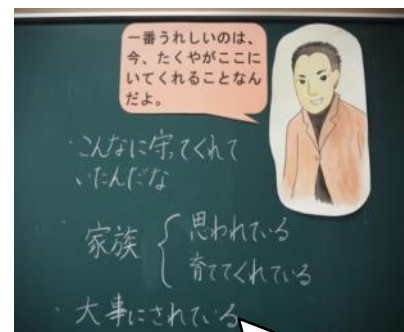
T : どうして嬉しいと思ったのかな。

C : お父さんたちがこんな思いを込めて育ててくれたことが分かったから。

C : ぼくの命をそれだけ思ってくれたんだと思うと嬉しかったから。

C : ぼくのことをそんなに大切に思ってくれていたから。

C : お母さんやおじいちゃん、おばあちゃんもぼくを大事に思ってくれているから。



補足説明を行い、「たくやがここにいてくれること」とは、「たくやが産まれて大きくなって、今ここに生きていてくれていること」という意味であること共通理解してから話合いを始めた。

(4)命はなぜ大切なのか、学習したことを通して考えたことを3人組で意見交換しましょう。  
(中心発問)

- ・自分一人のものではないから。
- ・命には家族の思いがたくさんつまっているから。
- ・みんなに支えられている命だから。
- ・自分の命は家族に大切に育てられているから。

- ・「なぜ命が大切かという〜」に続けて考えを発表し、自分なりの納得解を得られるようにする。
- ・3人組で意見交換をしながら多様な意見に触れる時間を設ける。
- ・「家族に大切に育てられている命」をつかむことができるよう、キーワードを板書する。
- ・導入で考えた命の大切さと、学習を通して考えた「命の大切さ」を比較し、新たな学びがあったことを板書を見ながら確認する。

### 全員に自分の考えをもたせる3人組の意見交換

T：命はなぜ大切なのかという今日の課題について、どう考えますか。自分の考えをまとめましょう。

自分の考えをもたせるための時間を設けた。

T：黒板を見ながら考えてもいいですよ。

T：それでは、3人組になって自分の意見を相手に言いましょ。次に、友達の意見を聞いて気付いたことや思ったことを伝え合いましょ。

何をすればよいのかが明確になるよう細かな指示を出した。

C：命がなくなったら、家族が悲しむから、命は大切だと思ふ。

C：ぼくもお父さんやお母さん、色々な人に大切に思われているから、命がなくなったら、そういう家族が悲しむから命は大切だと思ふ。

C：わたしは、家族からは大切な子供って思われていると思ふ。自分は家族に愛されていると思ふから命が大切だと思ふ。

☆「命はなぜ大切なのか」についての自分の意見を友達に伝え、自分の考えと比べながら聞き、友達の考えを聞いて気付いたことや考えたことを3人組で意見交換している。(発言・うなずき)



3 今までの生活を振り返ってワークシートに書く。  
・あなたは今まで家族に支えられている命だから大切にしようと思つて生きてきましたか。自分の生活を振り返つて書きましょ。

- ・病気になったとき、仕事を休んで看病してくれていることを思い出しました。家族に大事にされているから命があるなと思ひました。
- ・運動会前にけがをしてしまつてリレーが走れるか心配だったけれど、家族が励ましてくれたから走ることができました。大事に育ててくれているなと思ひました。

- ・書くことが苦手な児童に対しては、板書を見ながら一緒にキーワードを探し、似たような経験がないかを問うことで経験を想起させ、書くことができるように支援する。
- ・意図的な指名も取り入れながら発表させ、命に対する多様な感じ方に触れられるようにする。



- ・いつも怒られてばかりだけれど、私の命も家族に大切にされているのかなと思いました。
- ・大切に育ててもらっていると思っていただけ、それは、私の命を大切に思っていてくれることと同じだと気付きました。

☆本時の学習を通して気付いた「命の大切さ」に関して、自分の生活を振り返り、思ったことや考えたことをワークシートに書いている。  
(ワークシート・発言)

### 自己を見つめる書く活動

命はなぜ、大切なのか考えよう

1 今まで命の大切さを考えて生活していましたが、自分を振り返って書きましょう。

私は、今までたくさん家族に大切にされていると思ったことがあります。さみしいときがあるといっしょにいてくれたりしてくれます。でも私はそれを命にむすびつけては考えませんでした。これからも家族に大切にしてもらいたいし、これからは私も家族のことをもと大切に考えてすごしたいです。

命はなぜ、大切なのか考えよう

1 今まで命の大切さを考えて生活していましたが、自分を振り返って書きましょう。

ぼくは、あまり生活の中で命について考えたことはありませんでした。でもこのお話を読んで自分の命は一つしかないし、家族やいろいろな人に大切にされていることが分かりました。ほかにもぼくだけではなく友達もぼくのように家族やいろいろな人に大切にされている人だなと思いました。

書く活動を取り入れ、これまでの自分と学んだ道徳的価値を照らし合わせて生活を振り返らせた。命が大切な理由は多様であるが、本時の学びを生かした発問に絞ったことで、児童が何を考えるのかが明確化され、自分の生活と価値とを結び付けて考えやすくなった。

終末

4 教師の説話を聞く。

### 他の教職員による説話

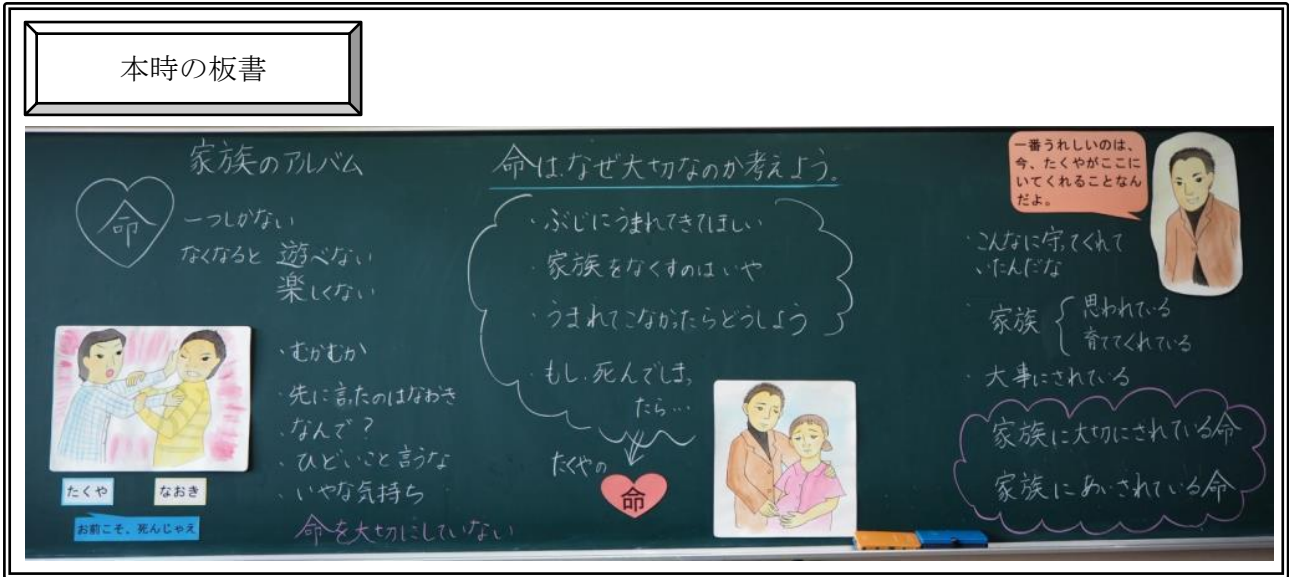
T：自分の命と同じくらい、今、お腹の中にある赤ちゃんの命も大切だと思います。みんなの家の人もそうだったと思うよ。みんなが家族から大切に思われているくらい、みんなも家族のことを大切に思い、その大切な命を一生懸命生きて欲しいです。

大きなお腹をした職員の話真剣に聞く姿があり、今日の学びが児童の中に印象付けられたことを感じ取ることができた。



- ・校内の妊娠している職員に協力してもらい、授業を参観した感想を話してもらうことで、ねらいとする価値を印象付ける。
- ・児童の学びの姿勢を称賛し、温かい雰囲気の中で授業を終える。

本時の板書



5 他の教育活動との関連

<事前指導>

- ◎5月 理科  
「植物の育ち」  
ホウセンカを育てることを通して、命あるものを責任をもって育てることの大切さに気付かせる。
- ◎6月 理科  
「チョウの育ち」  
生き物の誕生や成長を間近で観察させ、その神秘に感動させる。
- ◎5月 道徳科  
D 生命の尊さ  
教材名「目の見えない犬」  
主人公が団地のきまりを変えてまで、目の見えない犬を飼おうとしたのはなぜかを話し合うことを通して、命は平等で尊いものであることに気付かせ、命ある全てのものを大切にしようとする心情を育てる。

<道徳科>

9月 D 生命の尊さ  
教材名「家族のアルバム」  
命がなぜ大切なのかを話し合うことを通して、家族に愛され、大切に育てられている命の尊さに気づき、一生懸命生きていこうとする態度を育てる。

<事後指導>

- ◎10月 国語科  
「ちいちゃんのかげおくり」  
戦争によって多くの人の命が失われたことを読み取り、戦争の悲惨さや平和への願いについて考えたことを書く。
- ◎業前活動「読書タイム」  
命の大切さや死をテーマとして扱った本の読み聞かせや紹介を実施しながら、多様な命の捉え方に触れさせていく。
- ◎1月 道徳科  
D 生命の尊さ  
教材名「6さいのおよめさん」  
死を通して生命の尊さを考えることを通して、生命の有限性に気づき、困難に負けず、限りある命を精一杯生きていこうとする態度を育てる。

<家庭との連携>

本時で学んだことを児童が保護者へ伝え、保護者の考えをインタビューする活動を取り入れることで命の尊さを実感させたり、多様な意見にふれさせたりしながら価値理解を深められるようにする。  
「家族に愛され大切に育てられている命」について考える授業だからこそ、事後指導で家庭と連携することが効果的と考える。家庭と連携しながら、道徳的価値の浸透と補強を促進させている。

本日、道徳で「命の大切さ」について考える授業を行いました。「命の大切さ」は子供たちにとって考えることが少ない難しい課題です。授業を通して考えたことを、更に、子供たち自身がしっかりと実感を感じることができるよう、ご家庭のご協力をいただきたいと思います。

<ご協力いただきたいこと>

- 1 お子さんと一緒に教材を読んでください。
- 2 お子さんから、授業で考えた命の大切さについての意見を聞いてください。
- 3 教材を読んで保護者の方が感じる命の大切さをお子さんに伝えてください。
- 4 ワークシートにお考えをご記入いただくか、お子さんにメモを書かせてください。



## 家庭と連携した事後の活動

- ①命の大切さと家族との関わりを自分の経験と重ね合わせて考えるとともに、これからの生き方についても考えることができた児童

ワークシート案 ※裏面に教材を印刷し、親子で読めるようにする。  
道徳ノート

年 組 番 ( )

### 命はなぜ、大切なのか考えよう

1 今まで命の大切さを考えて生活していましたか、自分を振り返って書きましょう。

私は、今まで、たくさん家族に大切にされていると思ったことがあります。さみしいときがあるといっしょにいてくれたりしてくれます。でも私はそれを命にむすびつけては考えませんでした。これから家族に大切にしてもらいたいし、これからは私も家族のことをもと大切に考えてすごしたいです。

2 家の人にインタビュー！！

家の人と一緒に話をしよう。自分の考えを伝えて、家の人に感想を聞いてみよう。

人は一人ひとりが大切な存在で、命はもろい。その人がそのらしく生きていることが大切。一人ひとりがみんなを大切にしておかなくてはいけません。みんながすくすく育つ世の中になる。命は自分の

3 学習の振り返り だけのものではなく家族や友達みんなのもの。

1 「命はなぜ大切なのか」を考えることができましたか。	<input checked="" type="radio"/>
2 自分の考えを発表できましたか。	<input checked="" type="radio"/>
3 友だちの意見を自分の考えとくらべながら聞くことができましたか。	<input checked="" type="radio"/>
4 家の人を聞いて、命の大切さについてもう一度考えることができましたか。	<input checked="" type="radio"/>

自分の生活を振り返って書いている。本時の学習を通して、道徳的価値観の更新が図られている。また、「これからは～」という言葉に続いて、自己の生き方を考えることができています。

児童が保護者にインタビューをし、保護者が考える命の大切さについて分かったことを記入している。保護者の考えを聞くことで多様な命の捉え方に触れたり、学習したことを更に深めたりすることができ、より多面的・多角的な見方をするようになるようになった。

- ②命の大切さについて考えたことがなかったが、本授業を通して学んだことを振り返り、考えたことを書いている児童

ワークシート案 ※裏面に教材を印刷し、親子で読めるようにする。  
道徳ノート

年 組 番 ( )

### 命はなぜ、大切なのか考えよう

1 今まで命の大切さを考えて生活していましたか、自分を振り返って書きましょう。

ほくは、あまり生活の中で命について考えたことはありませんでした。でもこのお話を読んで「自分の命は一つしかないし、家族やいろいろな人に大切にされていることが分かりました。ほくにもほくだけではなく友達もほくのように家族やいろいろな人に大切にされている人だな」と思いました。

2 家の人にインタビュー！！

家の人と一緒に話をしよう。自分の考えを伝えて、家の人に感想を聞いてみよう。

自分の命だけでなく、自分だけの命ではないです。あなたが生まれてきて喜び、愛を思っている人がたくさんいます。毎日元気に学校に通う姿を応援してくれるご近所の方や、お友達も同じようにお友達を大切に思っている人います。だから命は大切だと思えます。

3 学習の振り返り

1 「命はなぜ大切なのか」を考えることができましたか。	<input checked="" type="radio"/>
2 自分の考えを発表できましたか。	<input checked="" type="radio"/>
3 友だちの意見を自分の考えとくらべながら聞くことができましたか。	<input checked="" type="radio"/>
4 家の人を聞いて、命の大切さについてもう一度考えることができましたか。	<input checked="" type="radio"/>

新たな道徳的価値に気付いた様子が見取れる。また、「友達の命も～」と道徳的価値の一般化が図られている。自分の命だけでなく友達の命という多面的・多角的な視点から「命の尊さ」を考えることができています。

保護者が考える「命の尊さ」が記されている。保護者が具体的にどのような人たちが命を支えてくれているのかを子供に伝えることで、児童は「自分も同じように大切に育ててもらっているのだ」と実感を伴って理解することができている。こうした家庭での話し合いの時間を確保してもらい、学びを学校と家庭で共有することで、道徳的価値の理解をより自分との関わりで深めることができるようになる。

## 6 評価の視点

### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・友達の発表を自分の意見と比べながら聞き、多様な視点から命の大切さを考えている。

### 【道徳的諸価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・命が大切な理由や、今までの自分を振り返って考えたことを書く活動を通して、ねらいとする道徳的価値を自分と結び付けて考えている。

## 7 考察

### (1) 道徳科の目標に示された学習活動

#### ①多面的・多角的に考える学習について

本授業では、道徳的価値について多面的・多角的に考えさせるために、3人組の話合いを活用した。本時のねらいに迫る場面で3人組の話合いを取り入れることで、一人一回は自分の考えを発言する場を設けられること、友達の意見について気付いたことや思ったことを伝え合うことで、より自分の考えを明確にできること、そのことが主体的な価値の自覚につながっていくこと、という利点があると考えたからだ。意見交換はおよそ3分間だったが、自分が思っていることや考えていることを自由に発言することができていた。「命がなくなってしまうたら」という切り口で語る児童もいた。また、「命は一つしかないから大切」という考えに終始する児童も見られたが、多くの児童が命の尊さについて多面的・多角的に考え、意見交換をすることができた。3人組の話合い後の全体での話合いでは、導入で考えた「命の大切さ」とこの場面の話合いで出た意見とを比較すること、新しい価値観に気付いた児童を称賛する言葉がけをすることも効果的であった。一人一人が「新しいことを学び取れた」という自信が付き、これからの生き方を考えることにつながる重要な場面となったと考える。

#### ②自分との関わりで考える学習について

命について考えた経験が少ない児童が、命の大切さを自分のこととして、実感を伴って理解できるように、本授業では「家族に大切にされている命」についてこれまでの自分を振り返って書くことを取り入れた。命の大切さを考えたことのある児童は、自分の経験や家族とのやり取りを振り返って書くことで、道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めることができた。また、命の大切さについて深く考えたことのない児童は、「これからは～」と自分の今後の生き方について考えを広げることができた。

### (2) 視点☆に基づく本時の評価

#### 【物事を多面的・多角的に考えている様子】

☆「命はなぜ大切なのか」についての自分の意見を友達に伝え、自分の考えと比べながら聞き、友達の考えを聞いて気付いたことや考えたことを3人組で意見交換している。

意見交換の前に自分の考えをまとめる時間を確保したので、どのグループも活発に発言し合っていた。教師が机間指導をしながら「どうしてそう思ったの。」と理由を問うことで、児童の考えが深まっていった。その後の全体での話合いでも、友達の意見を受けて、「～さんと似ていて」や「～さんに付け足しで」と進んで発言する児童の姿が多く見られた。児童の発言を生かしながら本時のねらいに迫っていくことができた。

#### 【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

☆本時の学習を通して気付いた「命の大切さ」に関して、自分の生活を振り返り、思ったことや考えたことをワークシートに書いている。

児童には、「どのような時に、命の大切さを考えたことがあるのか。」を具体的に問うたり、「自分の家族から命を大切にされていると感じることがあるか。」と自分のことと結び付けて考えさせたりすることが自分との関わりで考えを深めさせるために有効であった。また、「命の大切さについて感じたり、考えたりしたことがない。」という児童には「先生もそうだよ。深く考えたことなかったよ。」や「今日みんなと一緒に考えられたね。そのことについてどう思う。」等、ありのままを受け止めて、考え方や感じ方は多様であること、学習を通して新たに考えることの大切さを伝えていった。書く内容は多岐にわたったが、一人一人が道徳的価値についてこれまでの自分を振り返って書くことができた。

### (3) その他

家庭との連携を通して児童の道徳性を高めることは重要である。家庭と連携する際は、事前に家庭へ授業の趣旨や協力してもらいたいことを具体的に示した手紙を配布する、授業公開の際に道徳科を実施する等の工夫をすることで、多くの家庭の協力を得ることができる。また、多様な家族構成や家庭状況があることを踏まえ、十分な配慮を欠かさないことも大切である。本実践では、保護者の負担を軽減させるために、インタビューという形式をとったが、直接ワークシートに子供と話し合ったことを書いてくださる方も多かった。授業後に、家庭と連携した活動を取り入れることで、児童は、家族に愛され、大切に育まれている自分の命について実感を伴って考えることができたと考える。